

主権

国家の誕生と国際法

ローマ教皇を中心とする普遍的権威の崩壊 1494年トルデシリャス条約
Jean Bodin (藤田 p. 191) 「抗議的」概念としての主権

自然法

16世紀 Vitoria, Suarez 17世紀 Grotius

Vattelによる主権概念の導入 Vattel, « Droit des Gens » (1758)

社会契約論を国際法に持ち込む
背景 「国家」の確立・Vattelはスイス人

実証主義の時代 19世紀 経験・観察・論理

ドイツにおける「絶対主権」概念の誕生 Hegel派
実証主義成立の基盤整備 実定法の増加 条約の増加
積極的理由 国家の独立を保障・時代風潮との合致
消極的理由 国家の同質性

第一次世界大戦 藤田 p. 14 「現代国際法の形成」

一大知的革命 「人間は自由で合理的な存在である」という命題への疑念
主権概念にどのような影響が？

現代 主権概念の再評価と再批判

再評価の要因 植民地諸国の独立
再批判の要因 社会経済的要因・法的要因

平等

平等の意味 法の前平等・権利の平等・参加の平等・補償的不平等……

平等判定の基準

機能的平等 安全保障理事会・国際金融機構・ヨーロッパ連合……

平等の法的帰結

平等 他国の考えを押しつけられることはない 法の否定？

議論の場としての国際法

平等は国際法の基礎 「相互性原理」

注意！ 国際法の基礎は「合意」ではない

では、具体的に主権者はどの程度国際法の規律を受けているのか？